

近藤 辰巳・東海中学・東海高校校長 インタビュー



講堂舞台



講堂(登録有形文化財)正面

全国屈指の名門校として知られる中高一貫の男子校、私立東海中学・東海高校（学校法人東海学園、名古屋市東区筒井1-2-35）は2年後に創立140周年を迎える。医学、法曹、官僚、政治など様々な分野で日本をリードする有為な人材を輩出してきた伝統校だが、校内ではどのような教育が行われているのか、市民にとっても関心の的。高い教育の質について近藤辰巳校長は、仏教の教えをぶれずに伝え続けてきたことが背景にあるかもしれないと話す。近藤校長に教育理念や校風についてざっくばらんに語っていただいた。

—教育理念「共生（ともいき）」についてお聞かせください。

近藤辰巳校長 もともとこれは旧制東海中学の2代目の校長、椎尾辨匡（しいお・べんきょう）先生が説かれた思想です。椎尾先生は本校黎明期の卒業生であり、校長として赴任された後、関東の本山や大学と行き来しながら東海のことを大切にしていただいた先生です。

—仏教の考え方ですね。意味を教えていただけますか。

近藤校長 縁起がいいなどという「縁起」という言葉がありますね。例えば私の存在というのは父母から繋がっていますし、父母は祖父、祖母から繋がっていて、絶対に切れていません。1つ抜けるとすべての関係が崩壊してしまい、生き物はそれ1つでは存在しないというのが「縁起」の考え方です。

—なるほど。

近藤校長 私の命は私が初めてではなくて、もう父母の細胞からスタートしていますよね。命はずっと繋がっていますよ、というのがお釈



迦様がお説きになった「縁起」の考え方です。また、死んだら終わりみたいな気がしますが、そうではありません。肉体はなくなっちゃうように思えるかも知れませんが、正確に言うと、全ては決してなくなりません。様態を変えてどこかにあり続けます。例えば、肉体を土の上に置けば、バクテリア分解が始まって植物に吸収されて、みたいなことが起こりますよね。火葬にした場合でも一部は燃えて気体になり、残っ